

2007-2008秋冬ファッショントレンド

輪舞する前衛と正統

今シーズンも恒例のファッショントレンド座談会から特集がスタート。

さらに、一潮流となっているアヴァンギャルドをテーマとしたモード篇、オーセンティシティが戻ってきたスーツ・コレクション篇という3篇で構成する。

ファッショントレンドはどうなっているのか?

混沌の時代を探る。

プロローグ: メンズファッション界いちばんの話題をホットトーク!

不確かな創造より、確かな手触りへ。

ファッショントレンドの新シーズンの幕開けとして、全体を俯瞰、評価すべく、座談会を開催。今回は栗野宏文氏が欠席となったが、

河毛俊作、中野香織両氏と本誌・鈴木正文編集長が熱く議論を交わした。これまで、モード界を牽引してきたエディ・スリマンの今後がアナウンスされない中で、トム・フォード&ブラウンを中心としたオーセンティックなスタイルが注目されている状況を分析する。



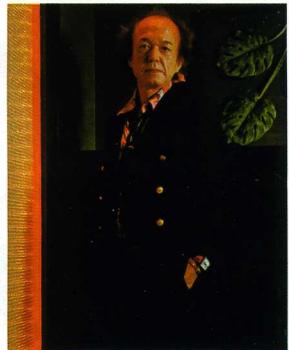
河毛俊作
演出家、フジテレビ・ゼネラルディレクター

連続ドラマが終了したのも束の間、現在は9月2日より大阪松竹座で上演される「蝶しぐれ」の演出を手がける。この日はマルタン・マルジェラの紺のスースにランパンのシャツ。80年代のレイバンのデッドストックのティアドロップというファッショントレンドで登場。



中野香織
服飾史家

東京大学大学院、ケンブリッジ大学客員研究员などを経て、文筆業に。「モードの方程式」「着るものがない!」(ともに小社刊)のほか、アン・ホランダー「性とスース」(白水社)などの翻訳も手がける。男性の服のあり方に鋭い視点で見る。



鈴木正文
ENGINE編集長

2007年の春夏シーズンはほとんどをショートパンツで過ごす。お気に入りはプラダとブルックス・ブラザーズのウインズ。秋冬にはそろそろスカートを穿こうかとも考えている(ウソ)。

2人のトム。

一今回、栗野さんは欠席です。代わりに今シーザンのキイワードをお聞きしてきました。トランジットとしては、引き続きタンジブル、つまり手触り感だそうです。

ツイードやレザー、モヘアなど、素材自体に味のあるもの。それが今シーザンの重要なキイワードになっています。色はグレイが相変わらず、人気。ブランドとして、栗野さんが注目していたのは、エディ・スリマンの最後のコレクションとなつたディオール・オムです。ツイードやモヘルのセーターという、まさにタンジブルな作品が多く見られました。こんなにお話をしていたら、ポイントはいくつかあると思いますが、そのエディ・スリマンの退場。そして、2人のトム。トム・ブラウンの健在ぶりとトム・フォードの超高級ブティックが話題の中心になるのではないかと思います。

河毛 まだ拝見していないのですが、トル・フォードは、ラルフ・ローレン・ペーパー・レベルをより高級にした感じでどうか?

鈴木 近いところはありますが、ラルフ・ローレンのほうが、なんとなく近づきやすいブランドです。トム・フォードはもう一つ排他的。カッコいいけど、彼のスタイルがすごく強く出ていて、ラルフ・ローレンのようにオープーンな感じはあまりしません。

河毛 特徴的なモデルとかコオディネーションはどういうものがあるんですか?

鈴木 ラインにリージェンシー、ワインザーという名前がついてます。

河毛 ラルフ・ローレンっぽいですね。

中野 幻想としてのイギリスのアッパークラスみたいな?

オードの服は印象が硬い。特にパンツなどは非常に厳密な感じがしますね。ラルフ・ローレンのように他の服と「オーディネートする余地はあまりなさそうですね。それだけ世界を限定している。

河毛 トム・フォードのことはグッチをやめてから気になっています。何かのインタビューで、「ライアン・フェリーが好きだと書いてましたね。たぶん、服に対しても口キシーミュージックみたいなアプローチだと思います。口キシーミュージックのビデオクリップというのは、実は美術などにとってもお金がかかっているんです。彼はラッシュ界におけるロキシーミュージックでありたいと思っています。

ソクなものにどこかアヴァンギャルドな解釈を新しく付ける。歌はスタンダードだけど、前衛的なキイワードが入っている。そこで自惚れる。全面的にナルシズムが出ている感じです。

鈴木 僕の印象としては、口キシーミュージックほど前衛的ではないと思います。

たとえばピーストライプのバンカースーツをトム・フォード流にテーラードしても、黒いレザータイをする事はない。

河毛 普通の着方をしている。ブライアン・フェリーはタキシードをレザーで作ったりするような人だけど。

鈴木 フォーマルなコートは100年前そのままと言つていいものでした。そのシェイプをトム・フォード的肉体というべきものに合わせたものにしていました。先ほどから話にあるアヴァンギャルドさというもののに関しては、もし入っているとすれば着る側の体型でしょうか。

河毛 トム・フォードは、モードではないんですね。2人のトムを比べると確かにブラウンのほうがエッジーで、モードとして成立している。トム・フォードはモードではないんですよ。たぶん、ライフスタイルそのものなんです。

鈴木 トム・フォードには気まぐれなフアンショニ性がないんですね。

中野 トム・フォードのパーソナル・ライフもそこに重ね見てしまいたくなる。

河毛 ラルフ・ローレンはそういう意味で健康的ですね。

河毛 売れると思いますよ。エスタブリッシュメントなんです。アメリカ東部のスパーーリッシュな人たちが平服として着られるというコレクションになつていて、人たちがスライドするといふことは想像できますが。

鈴木 同じトムでもトム・ブラウンのほうがファッショナブルなエッジが効いてますね。オーソドックスな感じに少しモダンさを加えたデザイン。カクテルドレスを着たところにスウェットを腰巻にするという感じのスタイリングの妙。

河毛 トム・フォードはそういう感じじゃないですね。2人のトムを比べると確かにブラウンのほうがエッジーで、モードとして成立している。トム・フォードはモードではないんですよ。たぶん、ライフスタイルそのものなんですね。

鈴木 ニューヨークっぽいですね。

中野 トム・フォードのパーソナル・ライフもそこに重ね見てしまいたくなる。

河毛 ラルフ・ローレンはそういう意味で健康的ですね。

鈴木 だから、スクールボーラー・ルックだけ成り立つわけです。

河毛 話に熱中してしまってたんですね。けど、ここまで話をしたデザイナーってみんなアメリカ人なんんですけど、それはどうなんですかね?

鈴木 他に見るべきものがないんです。エディ・スリマンが退場したら、エディ・スリマン的なものが急速に輝きを失つてしま



トム・ブラウン

トム・ブラウンのコレクションは、以前より「見せる」ショーナ要素は増えたが、基本的にはコンサバティブであることに変わりはない。



レイバン

河毛さんが最近集めている、レイバンのティアドロップ・トム・フォード自らのブランドからティアドロップ・タイプのサングラスがリリースされている。



トム・フォード

服そのものだけでなく、この写真に写っている空間や什器といったものすべてがトム・フォードの世界観。タキシードは非常にオーセンティックだ。

中野 着る人の体型を限定するつて、前衛というより、傲慢すれすれのスノーピズムですか。

河毛 服そのものにはアヴァンギャルドさというものは入れてこないです。着こなし方です。実は最近、昔のレイバンのティアドロップにはまつているんですけど、そのきっかけがトム・フォードです。あと、トム・フォードが最近着けている時計は口レックスのオール・ゴールドのダイバーズでから気になっています。何かのインタビューで、「ライアン・フェリーが好きだと書いてましたね。たぶん、服に対しても口キシーミュージックみたいなアプローチだと思います。口キシーミュージックのビデオクリップというのは、実は美術などにとってもお金がかかつているんです。彼はラッシュ界におけるロキシーミュージックでありたいと思っています。

なんじやないかと思います。非常にクラシックなものにどこかアヴァンギャルドな解釈を新しく付ける。歌はスタンダードだけど、前衛的なキイワードが入っている。そこで自惚れる。全面的にナルシズムが出ている感じです。

河毛 マーケティング的には、ラルフ・ローレンのパークルーベルなどを着ていただけで、前衛的なキイワードが入っている。そこで自惚れる。全面的にナルシズムが出ている感じです。

鈴木 売れると思いますよ。エスタブリッシュメントなんです。アメリカ東部のスパーーリッシュな人たちが平服として着られるというコレクションになつていて、人たちがスライドするといふことは想像できますが。

河毛 マークティング的には、ラルフ・ローレンのパークルーベルなどを着いた人たちがスライドするといふことは想像できますが。

鈴木 同じトムでもトム・ブラウンのほうがファッショナブルなエッジが効いてますね。オーソドックスな感じに少しモダンさを加えたデザイン。カクテルドレスを着たところにスウェットを腰巻にするという感じのスタイリングの妙。

河毛 トム・フォードはそういう感じじゃないですね。2人のトムを比べると確かにブラウンのほうがエッジーで、モードとして成立している。トム・フォードはモードではないんですよ。たぶん、ライフスタイルそのものなんですね。

鈴木 ニューヨークっぽいですね。

中野 トム・フォードのパーソナル・ライフもそこに重ね見てしまいたくなる。

河毛 ラルフ・ローレンはそういう意味で健康的ですね。

鈴木 だから、スクールボーラー・ルックだけ成り立つわけです。

河毛 話に熱中してしまってたんですね。けど、ここまで話をしたデザイナーってみんなアメリカ人なんんですけど、それはどうなんですかね?

鈴木 他に見るべきものがないんです。エディ・スリマンが退場したら、エディ・スリマン的なものが急速に輝きを失つてしま

た気がします。

中野 ストリートでエディ・スリマン的なものが普通になつてきていますね。

鈴木 だから、ファッショントレーニングとしては終わりなんですね。

エディ・スリマン後。

河毛 ところで最近、僕はマルタン・マルジェラを気に入っているんです。今日のスースもそうなんですが、彼は紳士服とは何かという「をわかっている。モードブランドにしては珍しく、仕立てもいい。それに吊るしてあるより着たほうが素敵。あと、レプリカの場合はレプリカだと表記している正直なところもない。それに、生地もいいですよ。トム・フォードの使うような高級な生地と違った意味で、普通に生地がいい。

中野 いわゆる紳士服ということでは、逆にサヴィル・ロウには迷いがあるように見受けられます。回顧展なんでものをはじめているんですよ。時代にどうついでいけばいいかわからないみたいで、ギーブス&ホークスもモード性を意識したライン、ギーブスを始めたと思つたらすぐやめてしまつたり。

河毛 ところで、鈴木さんはエディ・スリマンがいなくなつた「ディオール・オムはどう思われますか?」

鈴木 エディを越えられない気がします。少なくとも今回のコレクションを見る限りは、エディの持つていた「ある特徴」を局所化してしまつていて、どうですか。

河毛 プラダはいかがでしたか?

鈴木 良かったです。普段は常に予想外のデザインを出します。こんなもいも熊のぬいぐるみみたいなものが出でてきましたね。ああいうものを出すブ

ランドはない。ミウツチャ・プラダ

は独走状態です。あとラフ・シモンズによるジル・サンダーがよかつたですね。パリでのラフ・シモンズ自らのコレクションも同じく良かつた。プラダとは違けれど、おなじように未来志向で、その未来

が栗野さんの言うところの「手触り感」に満ちていて。

中野 日本のブランドはどうですか?

鈴木 僕は、もはや国籍は気にしなくていいと思います。日本人がいい「アッシュョンを作るとか、文化的な発信をしなければいけない」という話はあまり意味をもたないとおもう。

河毛 僕は日本には、「デザイナーなんかいらない」と思います。でも、世界でいいデニムといえば、日本でしょ。そういうことでいいと思います。そういうのがクールなんじゃないですか?

河毛 僕はトム・フォード時代に欠落していたものを全部出そうとしている。昼間の服です。僕が注目しているのは、ミウツチャ・プラダとラフ・シモンズ。ラフ・シモンズはパワフルですね。

河毛 あの「ミーマル感」やクリーンさが自分の「汚れ」にフィットしていないと思いませんけどね。

鈴木 デトックス・ファッショントラブル・シモンズは、パワフルだと思いますよ。さて、このあたりでシメにしたいと思うのですが、これから展望などを語ついただけませんか?

河毛 白洲次郎さんの娘さんが書かれ

た料理の本に白洲さんが亡くなる直前のエピソードが載つていて、大きなオムレツを食べながらシャンパンが飲みたいとおっしゃつたそうです。

鈴木 お洒落としか言いようがない。中野 いろいろ経験をつんで、「わかる男性にしか許されないお言葉。

河毛 007の中でもボンドが女性を誘うのに、スクランブルエッグを食べてシャンパンを飲もうといふくだりがあります。シャンパンと卵料理という共通点。

鈴木 男は卵が好きです。

鈴木 タンジブルなものですね。

河毛 無理やりまとめるようですが、オムレツやスクランブルエッグのよう

な服はカッコいいんじゃないかと思うんですね。トム・ブラウンやトム・フォードもそ

ラードはほかない。ミウツチャ・プラダはまさに熊のぬいぐるみというべきアイテムを登場させた。こんなデザインは他のブランドではないだろう。

河毛 そういう人たちに「マルな服は難しいですよね。トム・ブラウンなんかゴージャス感がないし。

中野 丈が足りなかつたんですか?

河毛 グッチは?

中野 丈が足りなかつたんですか?

河毛 グッチはトム・フォード時代に欠



ます。高くて「金あるだろう」ルックというん

であります。昼間の服です。僕が注目しているのは、ミウツチャ・プラダとラフ・シモンズ。

河毛 グッチはトム・フォード時代に欠

ます。高くて「金あるだろう」ルックというん

であります。昼間の服です。僕が注目しているのは、ミウツチャ・プラダとラフ・シモンズ。

河毛 男の服は道具だと思います。女

の時代は、今度の秋冬が最後だと思

います。高くて「金あるだろう」的では

ないものへ。以前流行った穴の開いたジ

ーンズとかではなく、もっと実直なもの

です。

河毛 男の服は道具だと思います。女

の時代は、今度の秋冬が最後だと思

私はすでに来年の春夏コレクションつまり今回のテーマのさらに先のシーズンまで見ているわけです。それを踏まえて申し上げると、まず、タンジブルというキワードの継続があります。少し先走りますが、次の春夏のラフ・シモンズがすこいいコレクションでした。タイトルが「マテリアル・ワールド」。みんなバーチャルなパソコンの世界に浸りすぎているから、そこから一步外へ出て「実際のものに触れてみようよ」というテーマでプレスリリースの中にもタ・ンジブルという言葉がありましたね。あと、来春夏はもっととプレッピーになります。誤解を恐れずに言えば、この10年くらい続いたゲイ・ッシュな流れは一旦終わりですね少なくともゲイの人々の美学が時代の最先端をリードしていく感じではなくなったかな、と。

エディの功罪

が大きなキイワードだったけど、来年はもっと踏み込んだ内容です。未来を考え始めた。こんどの秋冬は未来へ向かって一步踏み出すために自分のいる場所に集中して、じっと地に足をつけていた。不透明な未来に対して、自暴自棄とか自分勝ちとかにせず、ビジョンを持とうとしている。

「カッコいい」服の基準が変わった！

要野宏文の視点。

今シーズンのコレクションはどうだったのか?
そして、どういう方向に向かおうとしているのか?
ユナイテッドアローズの栗野さんに
トレンドを扱う立場から語っていただいた

るようですね。彼の功罪は、男のナルシズムを正々堂々と良しとしたことです。ゲイでもないのにお洒落な男性がこんなに多い国は世界中で日本しかないのであります。エディがうけたる素地は日本にはありました。そこに登場したエディ・スリマンは細い、しかもナルシスト。日本人に合わないわけがない。

今シートズンの方向性は?

サバだし、トム・フォードは、ビジネスマンですか。

A portrait photograph of Kishō Kurokawa, an elderly man with long white hair and glasses, wearing a dark suit and blue shirt, sitting in a chair.

栗野宏文

ユナイテッドアローズ・チーフクリエイティブオフィサー。今回の座談会には参加できなかった栗野さん。改めてお話を伺い、こいつた当日は、最近お気に入りのディストリクト別注のシャツで登場。ボタンダウンでありながらタブカラード(?)という遊び心がキラキラとしていました。

コレクションはまだ2ヶ月程度しか時間のない中で作った試し刷りのようなものですから。次の秋冬で答えが出ると思います。ただ、前回の座談会で工ディの服を着ていた人が、トム・ブラウンに流れると鈴木編集長が仰つてましたが、そちらはならないと思います。イデオロギーが違すぎる。

男の究極の贅沢は一枚のシャツをオーダーで作ることなんじゃないの? うところに戻る人がいる。そして、もともとアッシュションを面白くしようと思ってやってきたジョン・ガリアーノや川久保玲さんはのようにアッシュションつてもっと振り切ったものや個的な面白さを極限まで出したもののじやないのかと提案したのが今回秋冬だと思います。